第4章

安心・安全

第１節　携帯電話のマナー
――自身の行動、他者の気になる行動
第２節　携帯電話のセキュリティ対策
――セキュリティ対策内容、
18歳未満のフィルタリング設定率
第３節　災害への備え
――モバイルバッテリー準備率、
安否確認サービスの認知率

第１節　携帯電話のマナー

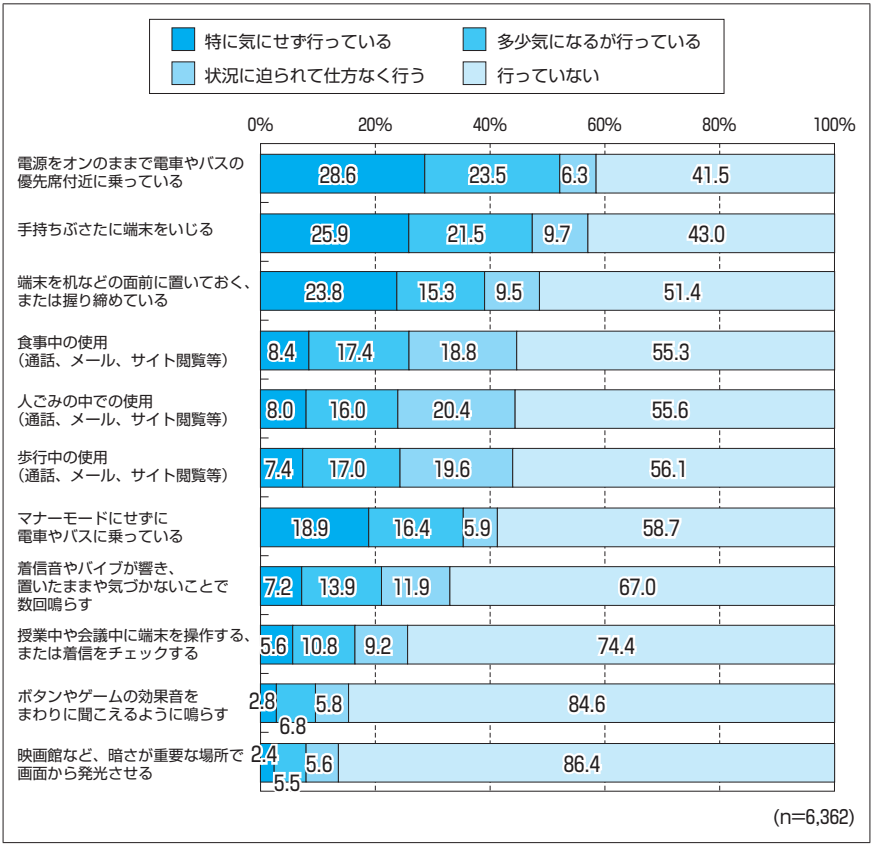
――自身の行動、他者の気になる行動

◆ポイント◆

- 「歩行中の利用」「食事中の利用」は、30代以下で携帯電話利用者の過半数が行っている（資料4-2、資料4-3）。
- 他者が携帯電話を使って「歩行中の利用」「食事中の利用」をしていることを、50代以上の約半数が「気になる」と回答（資料4-5、資料4-6）。

資料4-1　自身が公衆の面前で携帯電話を使って行っている行動（単一回答）

- **4割以上の人は「食事中」「歩行中」「人ごみの中」での携帯電話の使用を行っている。**

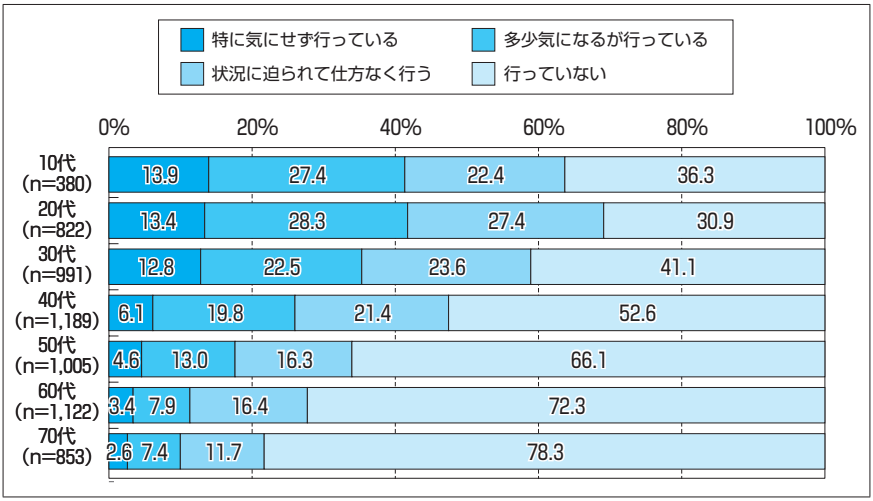


注：携帯電話所有者が回答。

出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-2　自身が公衆の面前で携帯電話を使って行っている行動 ―歩行中の使用―［年代別］（単一回答）

- 歩行中の携帯電話の使用は10～30代が高く、6割程度が実施し、「気にせず行う」方も1割程度。
- 40代以上は年代が上がるにつれて「歩行中の使用」は少なくなり、「気にせず行う」の割合は5％程度。

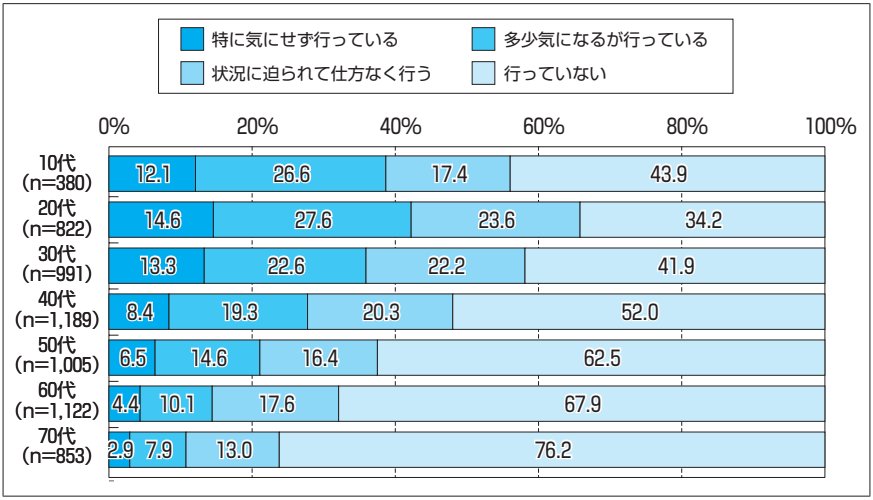


注：携帯電話所有者が回答。

出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-3　自身が公衆の面前で携帯電話を使って行っている行動 ―食事中の使用―［年代別］（単一回答）

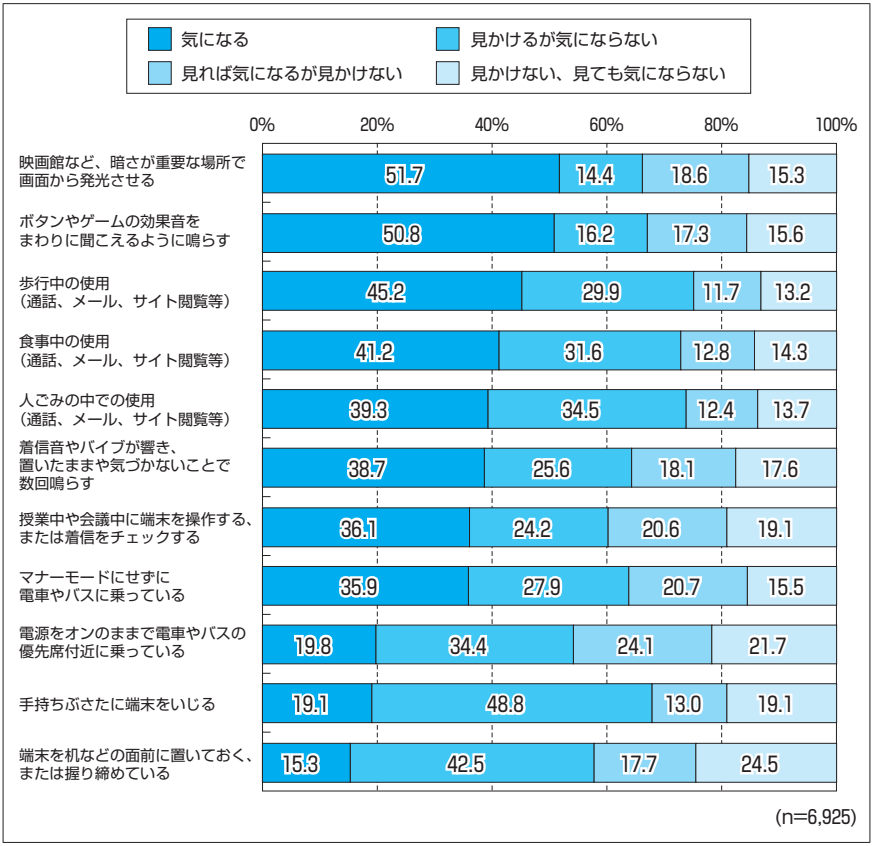
- 歩行中の使用と同様、食事中の携帯電話の使用も10～30代が高い。また「気にせず行う」の割合も1割強で40代以上の年代と比較して高い。
- 40代以降は年代が上がるにつれて使用する方の割合が減少。



注：携帯電話所有者が回答。
出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-4　他者が携帯電話を使って行っている行動で気になること（単一回答）

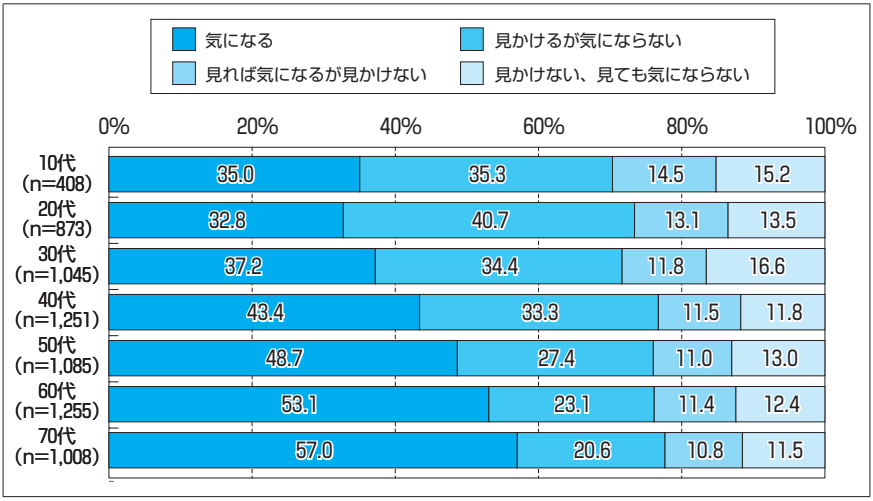
- 音や光に関する事項については、5割程度が「気になる」と回答。
- 一方、「端末を面前に置く」「手持ちぶさたに端末をいじる」は「見かけるが気にならない」が4割程度となる。



出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-5　他者の歩行中の携帯電話の利用が気になるか［年代別］（単一回答）

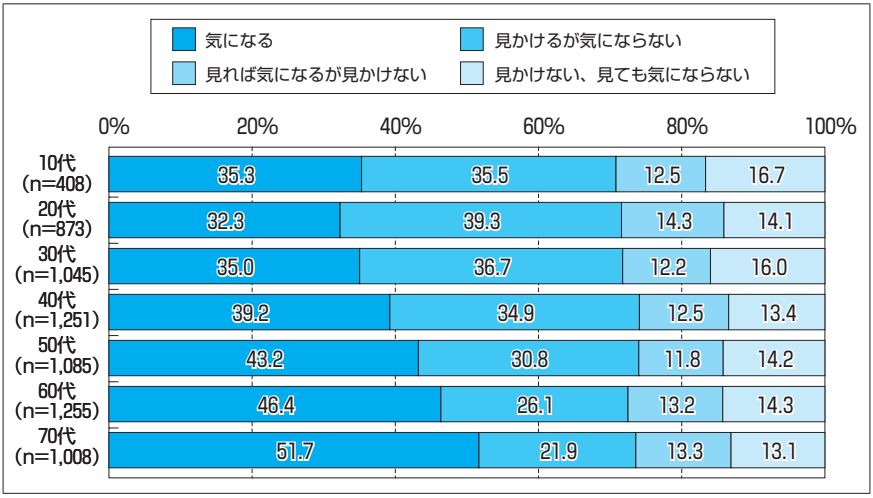
- 年代が上がるに伴い「気になる」という割合が高まり、60代以上は約半数が「気になる」と回答。



出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-6　他者の食事中の携帯電話の利用が気になるか［年代別］（単一回答）

- 年代が上がるに伴い「気になる」という割合が高まり、50代以上はおおよそ4割以上が「気になる」と回答。



出典：2020年一般向けモバイル動向調査

第２節 携帯電話のセキュリティ対策

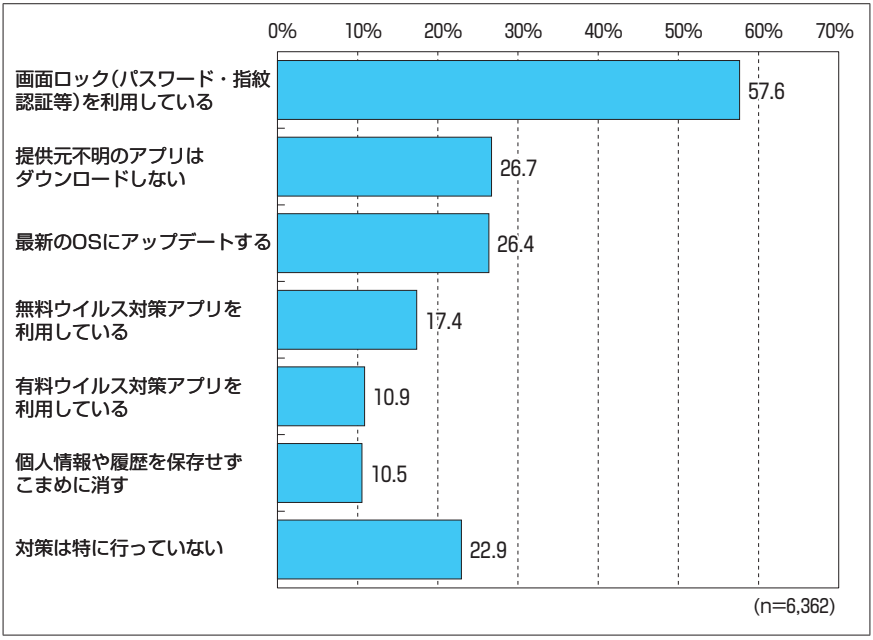
――セキュリティ対策内容、18歳未満のフィルタリング設定率

◆ポイント◆

- 携帯電話利用者の約2割がセキュリティ対策をしておらず、その割合は70代になると4割に拡大（資料4-7、資料4-8）。
- 18歳未満の子どもへのフィルタリング設定率は微増傾向で2020年では約3割（資料4-9）。

資料4-7　携帯電話へのセキュリティ対策（複数回答）

- 携帯電話のセキュリティ対策として、「画面のロック」が5割半ばで突出している。
- 一方、2割の方がセキュリティ対策を行っていない。

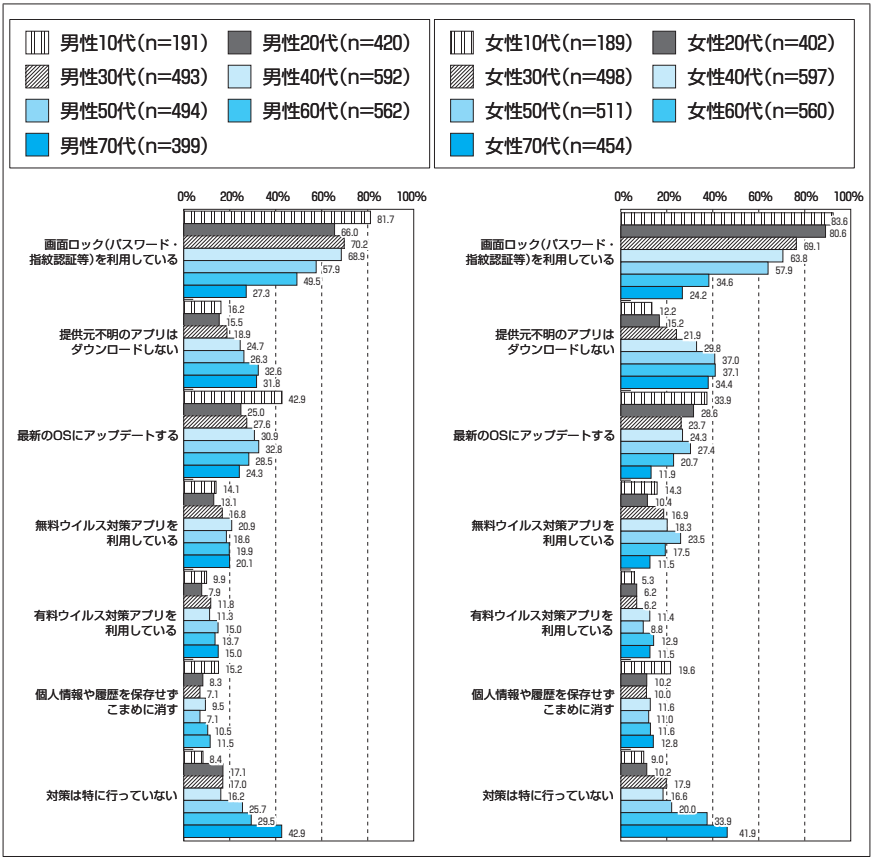


注：携帯電話所有者が回答。

出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-8　携帯電話へのセキュリティ対策［性年代別］（複数回答）

- 男女ともに10～50代が「画面ロック」がトップ。60代以上では「提供元不明アプリをダウンロードしない」がトップ。

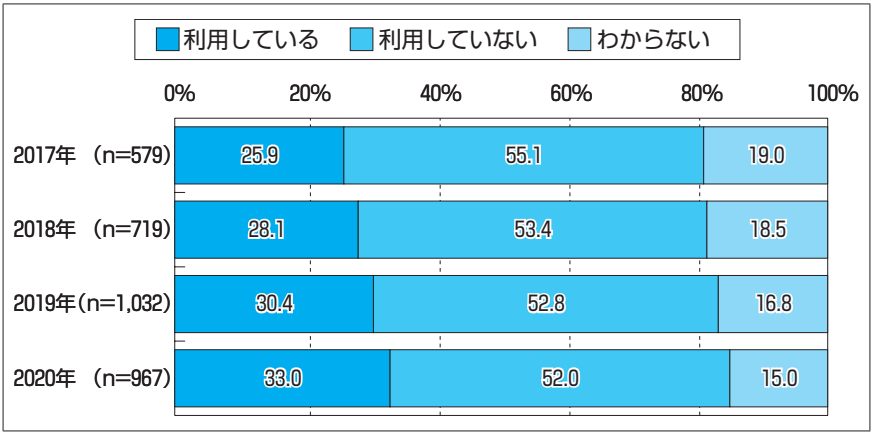


注：携帯電話所有者が回答。

出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-9　フィルタリング設定率の年次推移（単一回答）

- 18歳未満の子どもへのフィルタリング設定率は、2017年からやや増加傾向であり2020年で33％まで伸長。



注：携帯電話を所有している18歳以下の子どもと同居している保護者が対象。
出典：2017年-2020年一般向けモバイル動向調査

第３節 災害への備え

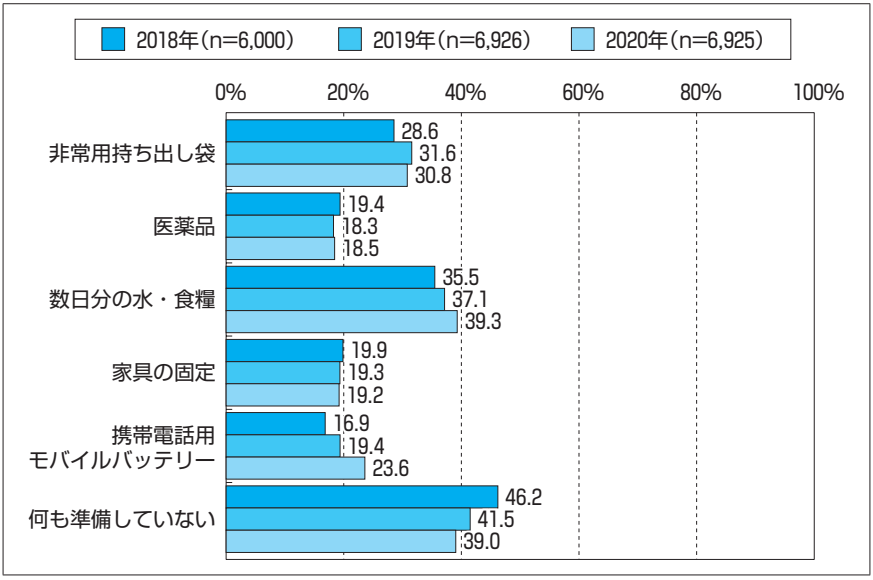
――モバイルバッテリー準備率、安否確認サービスの認知率

◆ポイント◆

- 非常用持ち出し袋や水・食糧などの備えは、年代が上がるに伴い増加の傾向。モバイルバッテリーは年代が上がるに伴い減少の傾向(資料4-11)。
- 年代が上がるに伴い、避難行動について対策をしている割合は高まる。10～30代で「避難所を知っている」とした割合は4～5割(資料4-13)。
- 「災害用伝言ダイヤル」の認知率は約6割半ば。東日本大震災後の2012年、全国的な気象災害のあった2017年の後に認知が拡大(資料4-14)。

資料4-10　災害時の備えの年次推移（複数回答）

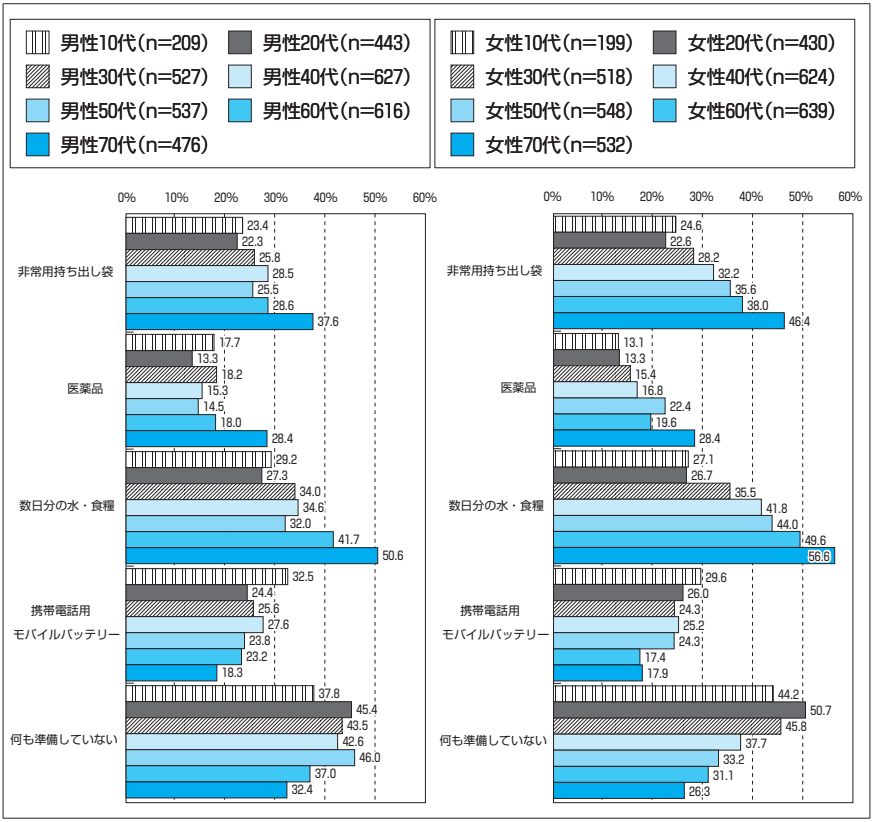
- 何も準備していない人は、2018年からやや減少し4割を下回る。
- 「携帯電話用モバイルバッテリー」の準備をしている人は、2018年から増加しており2020年で2割を超えた。



出典：2018-2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-11　災害時の備え［性年代別］（複数回答）

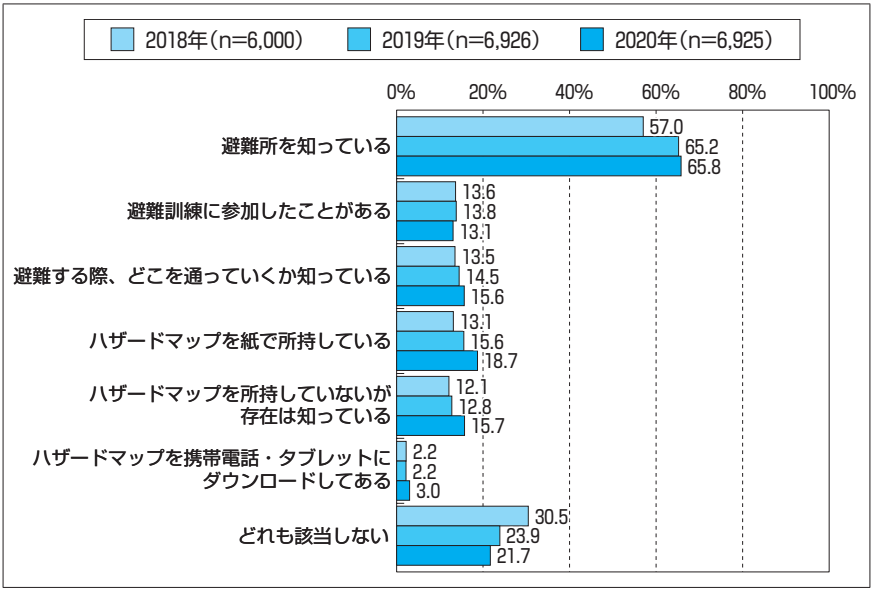
- 年代が上がるに伴い、各種備えの割合は高まる様子。
- 一方、「携帯電話用モバイルバッテリー」は年代の増加とともに減少する様子。



出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-12　避難行動の認識の年次推移（複数回答）

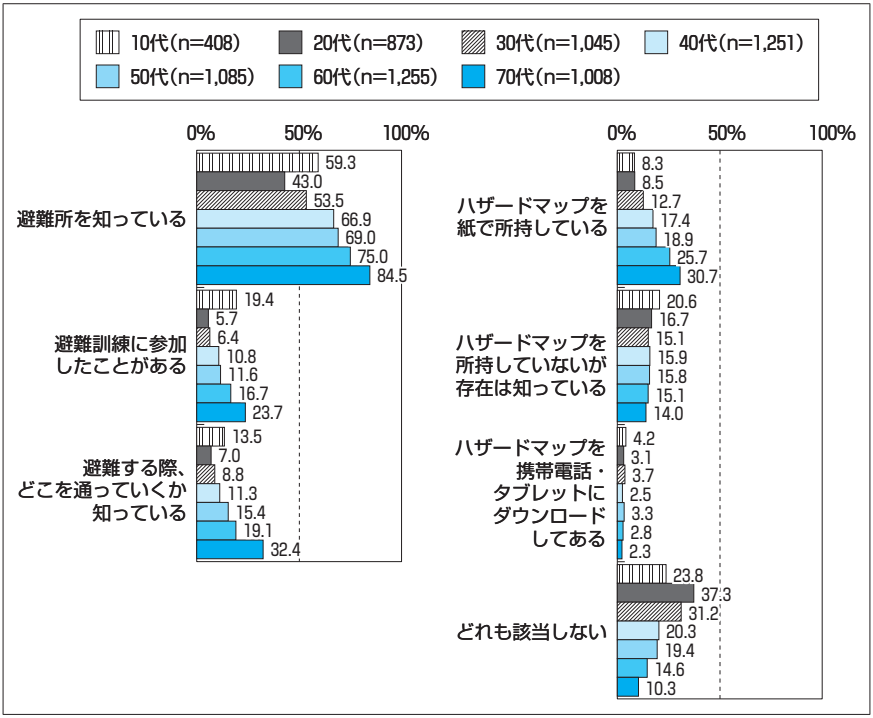
- 「避難所を知っている」が微増の6割半ばでトップ。
- 「避難訓練への参加」や、「避難経路の認知」は2割に満たず前年から横ばい。



出典：2018-2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-13　避難行動の認識［年代別］（複数回答）

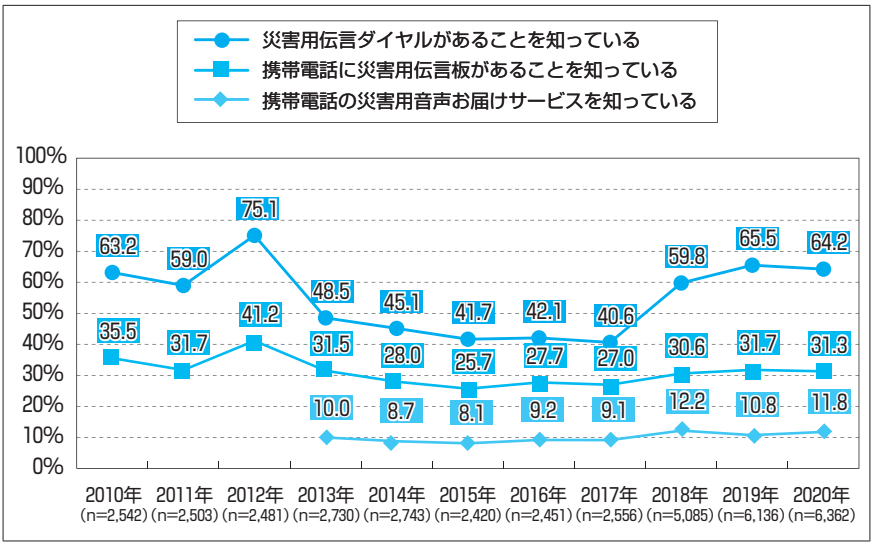
- 年代が上がるに伴い、避難行動の対策をしている割合は高まる。
- 10～30代で「避難所を知っている」は4～5割であり40代以上と比べると低い。
- ハザードマップについても、年代が上がるにつれて所持率が高まる。



出典：2020年一般向けモバイル動向調査

資料4-14　災害時の安否確認サービスの認知率の年次推移

- 「災害用伝言ダイヤル」の認知率は2020年では約6割半ばで2019年から横ばい。東日本大震災後の2012年、全国的な気象災害のあった2017年の後に認知が拡大。
- 携帯電話の「災害用伝言板」「災害用音声お届けサービス」の認知率は2013年以降横ばい。



注：携帯電話所有者が対象。

出典：2010-2020年一般向けモバイル動向調査